

編集の序

超音波ガイド下での中心静脈カテーテル留置は現在標準術式と言ってもよいくらい普及しつつありますが、現場では超音波診断装置の使い方は各術者によってさまざまです。その使い方に伴う合併症も度々見かけます。本当に安全な方法がまだ臨床現場に浸透しているとは言えない状況であると思います。そこで合併症を予測しつつ、いかに安全に超音波ガイド下で中心静脈カテーテルを留置すればよいかを多くの人に知ってもらうために、本書は、視覚的に理解しやすいテキストをめざしました。

本書は、第1章で超音波ガイド下中心静脈穿刺の基本手技について、第2～4章は内頸静脈、鎖骨下静脈、大腿静脈と部位ごとのアプローチ、第5章では小児へのアプローチを解説し、第6章で合併症についてまとめました。そしてAdvancedとしてシミュレーション教育についても解説しました。それぞれ各領域の専門家にご執筆いただき、初学者にもわかりやすく、かつ上級医にも役立つ内容となりました。本書では、一般的なテキストと異なり、動脈や静脈のリアルな走行や位置関係を実際に目で見て知っていただきたいと、随所に実際の症例の3DCT画像を盛り込みました。多少見にくい部分もありますが、各症例の血管走行の違いを知ることにより「超音波を使わずに穿刺するほど怖いものはない」ことを実感していただけるのではないかと思います。加えて、共通する基本手技や事前に必ず知っておきたい合併症は1つの章にまとめ、各章の手技の手順は統一するなど、超音波ガイド下での中心静脈カテーテル留置のすべてが伝わりやすいように工夫させていただきました。また読者に見やすく使いやすい構成を考慮し、編集により数多く調整させていただきました。執筆者の先生方には原稿の入れ替えや修正、追加原稿などの依頼をさせていただき大変お手数をおかけしました。こうした執筆者の先生方のご助力もあり、タイトル通りの実際の手技をイメージしやすい超音波ガイド下中心静脈穿刺の書籍が出来上がりました。臨床の場面で読者の皆さまのお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、ご多忙のなか分担執筆していただきました各先生方、本書の編集に関してご助言いただいた徳嶺讓芳先生、松島久雄先生に心より御礼申し上げます。

2021年2月

獨協医科大学埼玉医療センター 救命救急センター
杉木大輔